

# 環境活動レポート

## ENVIRONMENTAL ACTION REPORT

Eco Action 21

2010 年度

(1月～12月)



発行日：2011年 8月

古いけれども、新しい

# 鎌田醤油株式会社

# [www.kamada-soy.co.jp](http://www.kamada-soy.co.jp)

## ～ 目次 ～

	ページ
1.環境方針	・・・ 3
2.事業概要と対象範囲	・・・ 4～5
3.環境負荷の実績と原単位実績	・・・ 6
4.主要な環境活動計画と活動成果	・・・ 7
5.環境目標の実績と中長期環境目標	・・・ 8
6.環境活動の取組結果の評価と次年度取組内容	
6-1.環境活動の取組結果の評価	・・・ 8～9
6-2.次年度の取組内容	・・・ 10
6-3.主要な環境活動沿革と効果	・・・ 11
7.環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果ならび に違反、訴訟等の有無	
7-1.適用法令等の遵守状況の確認及び評価の結果	・・・ 12～13
7-2.環境関連法規等への違反、訴訟等の有無	・・・ 14
8.その他の環境関連活動	・・・ 14
9.代表者による全体評価の見直しの結果	・・・ 15

## ～ 1. 環境方針 ～

当社は「最優等の醤油を作り、社会のお役に立って信用を得る」という創業の家訓を守って醤油作りに励む一方、常に「今求められる味」を目指して、お客様に美味しさと楽しさを提供して参りました。

加えて近年は「食の安全・安心」への関心が高まる中で、食品メーカーとして当然の「安全」を確保し、お客様に「安心」していただくことで一層の「顧客満足」を実現すべく努力を続けて参る所存です。ところが最近の地球温暖化や、金融資本主義の暴走による資源や食料の高騰は、このような民間企業の努力など一蹴されてしまいそうな勢いです。

そこで当社では、「安全・安心のサステナビリティ」を求めて、より低炭素で環境コンシャスな供給チェーンを形成することが企業としての社会的責任（CSR）である共に、「顧客満足」にもつながるものと確信し、全社一丸となって環境保全活動に取り組み、その結果を逐次公表していくことと致しました。

### ＜環境保全への行動指針＞

1. 具体的に次のことに取り組みます。

- (1) 電力・燃料の消費に伴う二酸化炭素排出量の低減
- (2) 「低炭素社会」を目指した各種先行投資
- (3) 食品廃棄物の3R（減量、再使用、再生利用）の推進
  - ① 食品製造工程の改善により、原材料ロスの低減
  - ② 廃棄物リサイクル率の向上
- (4) 包装資材の節約と工程改善による包材ロスの低減
- (5) 洗浄工程の改善等による上水の使用削減
- (6) 事務用品のグリーン購入
- (7) コピー用紙の削減

2. 環境マネジメントシステムを構築し、継続的に取り組みます。

3. 環境関連法規制や当社が約束したことを順守します。

4. 環境への取り組みを環境活動レポートとしてとりまとめ公表します。

制定日 : 2007年 7月 4日

改訂日 : 2008年 7月 14日

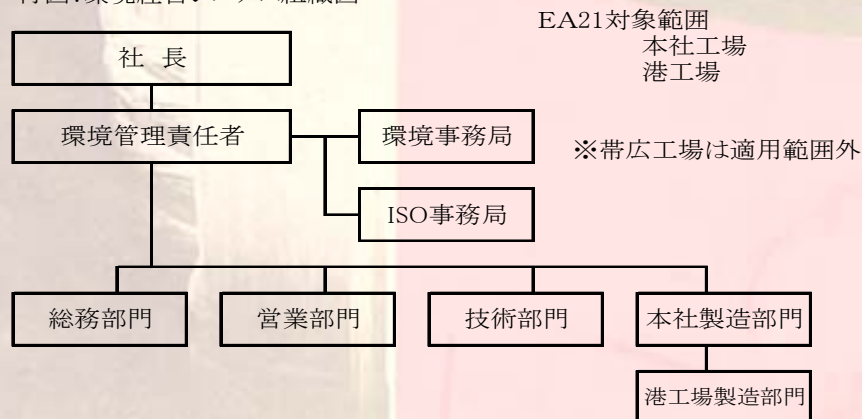
代表取締役社長 鎌田 郁雄

## ～ 2. 事業概要と対象範囲 ～

- 2-1 会社名 鎌田醤油株式会社  
代表者 代表取締役社長 鎌田 郁雄
- 2-2 所在地 香川県坂出市本町 1-6-35  
電話 0877-46-0001  
FAX 0877-45-5303
- 2-3 工場 本社工場 香川県坂出市本町 1-6-35  
港工場 香川県坂出市入船町 2-1-59  
帯広工場 北海道帯広市西二十条北 2-25-2  
※EA21 対象外 次年度取組予定
- 2-4 環境管理責任者 製造部長 真鍋 卓次  
連絡先 TEL 0877-46-0001
- 2-5 事業内容 (認証登録範囲) 醤油および醤油加工品・うどんつゆ・めんつゆ・各種スープ製造販売
- 2-6 工場の規模 生産量 7,435 トン/年  
従業員数 128 人  
工場床面積 6,026 m<sup>2</sup>
- 2-7 組織概要と対象範囲



付図:環境経営システム組織図



## 2-7 沿革

1789年(寛政元年)	鎌田宇平太操業・屋号「堺屋」
1902年(明治35年)	鎌田商会と改称  マークを商標登録
1941年(昭和16年)	有限会社鎌田商会に改組
1970年(昭和45年)	大阪万博に讃岐うどんつゆを供給
1971年(昭和46年)	現在の鎌田醤油株式会社に改組
1987年(昭和62年)	現、本社工場竣工 醤油の通信販売に本格着手
1994年(平成06年)	通販会社、鎌田商事株式会社を設立
1995年(平成07年)	港工場および配送センター竣工
1998年(平成10年)	帯広工場開設
2002年(平成14年)	ISO9001 認証取得 (本社工場及び港工場:醤油、醤油加工品及びめん つゆの設計・開発、製造及び販売)
2003年(平成15年)	帯広工場新築移転
2006年(平成18年)	供給センター竣工(港工場および配送センター拡張)
2008年(平成20年)	水産食品加工施設 HACCP 認定(港工場)
2008年(平成20年)	エコアクション 21 認証取得 本社・港工場
2011年(平成23年)	プライバシーマーク認証取得

## ～ 3. 環境負荷の実績と原単位実績 ～

### 3-1 環境負荷の実績

環境負荷の実績（2006年～2009年）を表3-1に表しました。

【表 3-1】 環境負荷の実績（2006年～2010年）

項目	単位	2006年	2007年	2008年	2009年	2010年
生産量（主要製品）	t	7,100	7,456	7,511	7,456	7435
従業員	人	113	112	129	137	128
全体総床面積	m <sup>2</sup>	3,930	6,026	6,026	6,026	6,026
食品廃棄物	t	287	296	279	273	234
食品リサイクル率	%	68.6	68.8	78.2	77.9	88.8
一般廃棄物	t	280	254	247	242	244
CO <sub>2</sub> 排出量 合計		2,138	2,186	1,812	1,730	1,778
内訳 電力	t-co <sub>2</sub>	900	1,000	993	970	970
化石燃料		1,238	1,186	819	760	807
水使用量	m <sup>3</sup>	43,837	44,846	47,385	45,146	44,187
電力使用量	kwh	1,622,338	1,802,045	1,760,673	1,748,216	1,747,950
化石燃料使用量	MJ	463,002	446,183	345,017	359,302	382,944

### 3-2 環境負荷の原単位実績

環境負荷の実績を原単位（環境負荷の実績／生産量）に置換えて表3-2に表しました。

【表 3-2】 環境負荷の原単位実績（2006年～2010年） ※原単位: 負荷の実績/生産量

	単位	2006年	2007年	2008年	2009年	2010年
食品廃棄物	t/t	0.040	0.040	0.037	0.037	0.031
一般廃棄物	t/t	0.039	0.034	0.033	0.032	0.033
CO <sub>2</sub> 排出量 合計		0.301	0.293	0.241	0.232	0.239
内訳 電力	t-co <sub>2</sub>	0.127	0.134	0.132	0.130	0.130
化石燃料		0.174	0.159	0.109	0.102	0.109
水使用量	m <sup>3</sup> /t	6.174	6.015	6.309	6.055	5.943
電力	kwh/t	228.5	241.7	234.4	234.5	235.1
化石燃料	MJ/t	65.2	59.8	45.9	48.2	51.5

## ～ 4. 主要な環境活動計画と活動成果 ～

### 4 主要な活動と成果

環境活動計画と活動成果を表 4-1 に表しました。

『表4-1』2010年度各部署の環境活動内容と目標および削減効果

	部署名	項目	主な内容	目標および期待効果	削減実績/年
1	総務部	啓蒙活動	1.改善活動におけるエコアクションの推進	エコテーマ・エコ評価を追加	
		啓蒙活動	2.社内報にエコアクション関連記事を掲載し、周知啓蒙を継続実施	毎回掲載	
		廃棄物削減	3.社外パンフ・雑誌類のリサイクル	新リサイクルフローの構築	690kg
		廃棄物削減	4.シュレッダーダストのリサイクル	古紙リサイクルボックスの設置	589kg
2	技術部	食品廃棄物削減	1.醤油オリからの醤油の回収・生揚の品質評価	品質評価実施中	
		食品廃棄物削減	2.ダン粕の有効利用:節かす、昆布かすの有効利用	節かす再利用調査	
		廃棄物削減	3.OA用紙のリユース、両面コピー、紙ベース利用方法の再検討	両面コピー化・裏面再利用	
		CO2削減	4.その他全部門共通取組		
3	営業部営業課	化石燃料削減	1.エコドライブの推進:運行方法	日常の活動に反映させる	
		廃棄物削減	2.OA用紙使用量削減	日常の活動に反映させる	
4	営業部販売課	廃棄物削減	1.紙類の分別とリサイクル	日常の活動実施中	
		節電	2.直売所照明器具の高効率照明への更新	対象30灯:4,500kwh/年削減	4,536kwh
5	営業部配送課	化石燃料削減	1.ガソリン使用量削減:駐車場移動運転削減	削減効果計測中	82L
		化石燃料削減	2.エコドライブの推進	日常の活動実施中	
		廃棄物削減	3.ストレッチフィルムからバレット	71本分削減	71本
		節電	4.製品倉庫の照明の節電	日常の活動実施中	
		廃棄物削減	5.業務予定表の部数削減によるOA紙使用量削減	2部→1部 実施中	267枚
6	本社生揚	節水	火入装置洗浄方法の見直しによる節水	20L/回削減	15㎡
7	本社配合	節電	1.チラーユニットの効率運転による節電	ポンプ運転時間見直し検討	
		節水	2.送液配管の洗浄方法見直し	洗浄方法見直し検討	
8	希釈充填	節水	1.バスト・配管洗浄の見直しによる節水	洗浄方法見直し検討	12.6㎡
		節水	2.洗浄水見直しによる節水	洗浄方法見直し検討	
9	業務充填	節水	洗瓶機の水量調整による節水	洗浄水20%/年削減	32% 101㎡
10	本社紙パック	節水	充填設備冷却水量の見直しによる水量低減	紙パック充填機使用水量5%削減	18% 430㎡
11	ストレート充填殺菌	節水	洗浄時間・方法の見直し、バルブ操作の標準化による水量低減	ストレート充填殺菌使用水量5%削減	6.8% 85㎡
12	資材課	廃棄物削減	OA用紙使用量削減	10枚/日削減	5400枚
13	保全課	食品廃棄物削減	1.産廃処分していた生揚オリを排水処理にて処理し、産廃量を削減	産廃量20t/年削減 食品リサイクル率5%UP	08年実績20t
		節電	2.LED・CCFLなどの次世代高効率照明への更新		8,568kwh
		節電	3.排水処理ブロウにインバタを取付、時間帯別制御し電力量削減	総電力使用量前年比1%削減	10,950kwh
		節電	4.熱交換用水冷配管改善による運転電流削減		10,700kwh
14	製造部長	廃棄物削減	1.EPU紙パック重量低減による廃棄物量低減およびリサイクル料金低減の検討	EPU200mL重量2g/個削減 25,500kg/年削減目標	
		廃棄物削減	2.茶ガラス瓶重量低減による廃棄物量低減およびリサイクル料金低減の検討	茶ガラス瓶110g/本削減 22,000kg/年削減目標	
15	港工場生揚	食品廃棄物削減	1.醤油オリから醤油回収し、再使用する	回収率4%UP	6% 18.7kl
		節水	2.洗浄時間・方法の見直し、バルブ操作の標準化による水量低減	200L/回削減	27,4㎡
16	港工場配合	節水	ライン洗浄用の熱水準備量の低減	熱水1000L/回削減	135㎡
17	港工場紙パック	食品廃棄物削減	1.UPN充填機の本液洗浄手順見直しによる排液ロスの低減	8400L/年削減	8,960L
		節水	2.送液ライン洗浄水の削減	現状調査の結果、現状維持	
		節水	3.紙パック冷却水槽の節水	現状調査の結果、現状維持	
		節水	4.冷却・洗浄水量の低減	現状調査の結果、現状維持	
18	港工場長	食品廃棄物削減	1.醤油オリから醤油回収し、再使用する	回収率4%UP	6% UP
		廃棄物削減	2.会議資料・周知文書等の厳選配布によるOA紙削減	業務連絡書・自動立体倉庫記録紙削減	
		化石燃料削減	3.乗り合わせや自転車に変更など交通手段の見直し	日常の活動実施中	
		啓蒙活動	4.その他全部門共通取組	環境改善活動の取組 8件/年	9件

## ～ 5. 環境目標の実績と中長期環境目標 ～

### 5 環境目標の実績と中長期環境目標

環境目標と原単位実績結果および中長期目標を表 5-1 に表しました。

【表 5-1】環境負荷の原単位実績および中長期環境目標

※原単位:負荷の実績/生産量

	単位	実績	目標値	09年度結果	10年度結果	達成状況	中長期目標		
		2010年	09年1%削減	08年比1%削減	09年比1%削減		2011年	2012年	2013年
食品廃棄物	t/t	0.031	0.036	1.4%削減	14%削減	○	前年比1%		
一般廃棄物	t/t	0.033	0.032	1.3%削減	1.1%増加	×			
CO2排出量 合計		0.239	0.230	3.8%削減	3.1%増加	×			
内訳 電力	t-co2/t	0.130	0.129	1.6%削減	0.3%増加	×			
化石燃料		0.109	0.101	6.5%削減	6.5%増加	×			
水使用量	m <sup>3</sup> /t	5.943	5.994	4.0%削減	1.8%削減	○			
電力	kwh/t	235.1	232.1	0.02%増加	0.3%増加	×			
化石燃料	MJ/t	51.5	47.7	4.9%増加	6.9%増加	×			

## ～ 6. 環境活動の取組結果の評価と次年度取組内容 ～

### 6-1 環境活動の取組結果の評価

#### 1) 食品リサイクル

結果: 2009 年度比 1%削減の目標に対して実績は 14%削減し目標を達成することが出来た。

食品リサイクル率:2009 年度 77%→2010 年度 88%にUP(目標 80%以上)

成果: 産業廃棄物にしていた醤油オリを再生使用し、その回収率がUPしたことと産廃方法の見直しにより成果をあげました。作業の見直しにより排液ロスが大幅に低減され、生産性向上につながりました。

見直: 今後大幅な削減が困難になるため継続的な活動が必要。

#### 2) 廃棄物

結果: 2009 年度比 1%削減の目標に対して実績は 1.1%増加し目標未達成であった。

成果: 廃棄からリサイクルへの呼びかけと共に雑誌・新聞・OA紙・シュレッダーダストなどを分別し、リサイクルを行いました。また原材料受入方法(18LBB受入→ローリー受入)の見直し、廃プラの発生抑制することができました。

一般廃棄物の増量が未達成の原因と考えられ更なる分別によるリサイクル化により廃棄物の減量化を図りたい。

見直: 紙パックや瓶の設計変更による軽量化が可能になれば更なる削減が期待できます。

#### 3) 水使用量

結果: 2009 年度比 1%削減の目標に対して実績は 1.4%削減し目標を達成することが出来た。

成果: 業務改善による節水洗浄を目標とし取組により成果をあげた。

給水設備の定量化を量ることで前年比 0.5%の成果をあげた。

見直：洗浄方法は品質・衛生面に影響を起こすため慎重に活動するとともに今後も継続的な取組を行う。

#### 4-1) CO2 削減

結果：2009 年度比 1%削減の目標に対して実績は 3%増加し目標未達成であった。

成果：2006 年度比で比べるとボイラを重油から天然ガスに転換したため大幅な削減効果となっていたが前年比で比べると使用量が増加した。電力使用量も化石燃料使用量も前年比は増加している。

見直：業務改善による電力使用量および化石燃料削減の見直しが必要。

#### 4-2) 電力使用量削減

結果：2009 年度比 1%削減の目標に対して実績は 0.33%増加し目標未達成であった。

成果：07 年～08 年の生産設備の増築による使用量増加が主な要因です。高効率照明・設備機器の更新および排水処理施設 INV 化で前年比 1%削減を行えたが生産量と関係がなく原単位では増加となった。

見直：業務改善による節電への見直しが必要。生産性の向上の取組が必要。

#### 4-3) 化石燃料使用量削減

結果：2009 年度比 1%削減の目標に対して実績は 7%増加し目標未達成であった。

成果：2006 年度比で比べるとボイラを重油から天然ガスに転換したため大幅な削減効果となっていたが前年比で比べると使用量が増加した。

対前年比の増加の要因は、生産設備増築における生産準備量増加が主な要因です。ガソリン燃料のリフト 2 台をバッテリー稼動に更新し、化石燃料の使用量低減に努めた。

見直：業務改善による化石燃料削減の見直しが必要。

蒸気配管の漏れ・スチームトラップの漏洩点検・保温を行い、蒸気の有効利用を行う。

#### 5) 環境教育・訓練

成果：社内報に環境関連記事の掲載、環境白書全員に配布。

エコ検定の推進。

環境方針カード・私の役割作成

環境活動報告会(年 2 回)

環境改善活動の実施

見直：継続的活動を行う。

#### 6) 総括

これまで対 2006 年度比で評価を行っていましたが本年度より目標を対前年比に設定したところ想像以上に厳しい結果となった。次年度は、再度対前年比 1%を目標設定し取り組み強化に励みたい。

## 6-2 次年度の取組内容

次年度の環境活動計画を表 6-1 に表しました。

『表6-1』次年度取組計画(2011年)

計 画 内 容				
重点実施項目			実施内容	目標原単位 前年比1%DOWN
食品リサイクル	食品廃棄物の減量	醤油オリから醤油の回収	セラミックフィルターによる回収率向上(継続)	前年比1%UP
		排液ロスの低減	排液量の見直し低減(継続)	前年比1%DOWN
		だしかすの有効利用	節滓、こんぶ滓の有効利用および発生減量(継続)	事業計画
			「未蒸煮化」による原料そのものの減量化(継続)	
	港オリ産廃量削減	排水処理設備での処理(継続)	排出 0	
省資源	水	節水洗浄	過剰な洗浄水量の見直し(継続)	前年比1%DOWN
		熱水洗浄の見直し	熱水洗浄水量の適正化(継続)	前年比1%DOWN
		冷却・洗浄水量低減	バルブ操作の標準化、定期清掃(継続)	前年比1%DOWN
	紙	OA紙使用量低減	リユース、両面コピー、紙ベース使用の再検討(継続)	日常管理
ECO	グリーン購入推進	エコマーク等商品の優先購入(継続)	実績ベース	
CO2削減	節電	高効率照明への更新	高効率照明(LEDライト)への更新(継続)	実績ベース
		太陽光発電システムの導入検討	供給センター南側屋根に100kw級パネル設置	事業計画
		インバーターの活用	インバーター採用による節電(継続)	実績ベース
		水冷式エアコンの薬品洗浄	効率運転による節電(継続)	日常管理
	効率化	ガソリン使用量削減	配送効率のアップ(継続)	前年比1%DOWN
		エコドライブの推進	アイドリング、急発進、急加速、空気圧、エアコン(継続)	日常管理
		非常用発電設備の検討	リスク管理の必要性検討、小型発電機の導入検討	事業計画
		スチームトラップの定期診断	不良トラップの撲滅によるスチームロス削減	実績ベース
		洗浄用熱水製造の効率化検討	熱源の見直し(エコキュート、電気温水器等)	実績ベース
	ECO	低公害車・軽車両の購入	環境に優しい車の購入(継続)	実績ベース
		省エネ電気製品の購入	省エネ効果を検討し購入(継続)	実績ベース
		改善活動の活性化	環境関連テーマの取組み(継続)	実績ベース
国内クレジットの維持・運用		港ボイラのガス使用量モニタリング管理	実績ベース	
廃棄物	紙	シュレッダーの使用制限	機密文書に限り使用(継続)	日常管理
		紙バック重量低減	再設計による軽量化検討(継続)	実績ベース
	ガラス	茶瓶重量低減	再設計による軽量化検討(継続)	実績ベース
		リサイクル	廃棄からリサイクルへ	カタログ、雑誌類のまとまった(30箱)引取り(継続)
自販機容器のリサイクル	不燃物→自販機横リサイクルBOXへ(継続)		日常管理	
環境意識の高揚	啓蒙活動	環境情報の伝達	カマダ通信に環境関連記事の掲載(継続)	日常管理
		環境意識の高揚	エコをテーマにした改善報告会の開催/年2回(継続)	実績ベース
		環境意識の高揚	エコ検定試験の受験(継続)	実績ベース

### 6-3 主要な環境活動沿革と効果

主要な環境活動沿革と効果を表 6-2 に表しました。

【表 6-2】 主要な環境活動沿革と効果

年 月	目的	項目	内容	主な効果
2006年 4月	更新・省エネ	空調設備更新	水冷式エアコン6台→GHPに更新	電力量削減 36,315kwh/年
2006年 11月	省エネ	エアコンプレッサーの統合化	既設コンプレッサ22k w x 5台→37k w x 1台に統合	電力量削減 86,728kwh/年
2007年 2月	廃棄物削減	食品廃棄物の再生使用	廃棄醤油オリから醤油の回収	回収率 40%/年
2008年 1月	更新・省エネ・公害	ボイラの天然ガス化更新	重油ボイラ2t/h (3缶) →ガスボイラ1.2t/h (4缶)	低公害・CO2 156 t-co2/年
2008年 8月	生産効率	充填機ライン増設	高速充填機導入による効率充填作業	生産性・環境負荷UP
2009年 1月	更新・省エネ・公害	ボイラの天然ガス化更新	重油ボイラ2t/h (3缶) →ガスボイラ1.2t/h (4缶)	低公害・CO2 156 t-co2/年
2009年 2月	生産効率	配合室増強	配合設備増強による充填設備効率運転対応	生産性・環境負荷UP
2009年 6月	上水削減・漏水対策	地下水膜処理設備の稼働	上水削減及び漏水対策	上水使用量削減 13,500m <sup>3</sup> /年
2009年 6月	更新・省エネ	空調設備更新	水冷式エアコン8台→GHPに更新	電力量削減 46,846kwh/年
2009年 9月	省エネ	エアコンプレッサーの統合化	既設コンプレッサー (7台) →37k w x 1台に統合	電力量削減 53,000kwh/年
2009年 9月	更新・省エネ	上水ポンプ設備の更新	インバータ搭載機種に更新	電力量削減 12,000kwh/年
2009年 9月	生産効率	配合釜更新	開放釜→密閉ステンレス釜に更新	生産効率UP
2009年 10月	更新・省エネ・危険物	フォークリフトの電動化	ガソリン燃料のリフト2台をバッテリー稼働に更新	化石燃料削減 2,586 L/年
2009年 10月	省エネ	蔵元売店照明のLED化	店舗内照明白熱電球60w16灯→LED電球5wへ交換	電力量削減 2,100kwh/年
2009年 11月	廃棄物削減	醤油オリの産廃量削減	産廃オリの排水処理施設における社内処理	廃棄物削減 20 t/年
2010年 2月	省エネ	事務所・売店照明の省エネ	蛍光灯136本→CCFLランプ、ハロゲン球30灯→LEDに取替	電力量削減 13,104kwh/年
2010年 4月	教育・訓練	環境方針・私の役割カード配布・環境活動報告会開始・環境改善活動開始		環境意識向上
2010年 6月	省エネ	排水処理ブロワのINV設置	ブロワにインバータを設置し全速から多段速に変更	電力量削減 35,478kwh/年
2010年 6月	リサイクル	紙類のリサイクルフローの確立	可燃物廃棄していたパンフ・雑誌・シュレッダーダストをリサイクル業者に譲渡	廃棄物削減 1.8 t/年
2010年 9月	生産効率	充填機ライン更新	高速充填機導入による効率充填作業	生産性・環境負荷UP
2010年 11月	啓蒙活動	国内クレジット制度認証取得	天然ガスボイラへの更新より取得・111t-co2/年	環境CSR向上
2010年 12月	節水	水使用量の見直し	業務改善による水使用量の見直しおよび定量化による	上水使用量削減 806m <sup>3</sup> /年



天然ガスボイラ更新



売店照明等のLED化

削減量合計 (年間)		
CO2	k g-co2/年	443,331
電力量	k w h/年	285,559
燃料	L/年	117,966
上水	m3/年	14,306
廃棄物	t/年	22
投資額	万円/年	10,690
経費削減	万円/年	1,858

～ 7. 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟等の有無 ～

7-1 適用法令等の遵守状況の確認及び評価の結果

項目	能力・取扱量	台数	届出基準	関連法規	届出要否
1) 本社工場 設備系列					
ボイラ設備	都市ガス13Aガスボイラ 蒸発量 1.2t 伝熱面積:5.64 m <sup>2</sup> バーナ能力:69.4Nm <sup>3</sup> /h	4	伝熱面積10m <sup>2</sup> 又はバーナ能力80Nm <sup>3</sup> /h	大気汚染防止法	該当せず
排水処理施設	水量 85 m <sup>3</sup> /日処理	1	特定施設又は日平均 50 m <sup>3</sup> 以上	水質汚濁防止法 下水道法	対応済み
コンプレッサ	2.2～7.5kw未満	7	出力 2.2～7.5kw未満 騒音規制条例:対象施設	騒音に係わる指定施設 (坂出市条例)	対応済み
	7.5kw以上	7	出力 7.5kw以上 騒音規制法:特定施設 振動規制法:対象施設	騒音・振動規制法	対応済み
送風機	3.7kw	1	出力 2.2～7.5kw未満 騒音規制条例:対象施設	騒音に係わる指定施設 (坂出市条例)	対応済み
	15kw	2	出力 7.5kw以上 騒音規制法:特定施設	騒音規制法	対応済み
クーリングタワー	1.8kw	1	出力 1.4kw以上 騒音規制条例:対象施設	騒音に係わる指定施設 (坂出市条例)	対応済み
2) 取扱物質					
本社 + 港工場	廃棄物・マニユフェ スト	委託契約書締結・許可書の内容確認 マニユフェスト	全て	廃棄物処理法	対応済み
	動植物性残渣		年間残渣合計 100t以上	食品リサイクル法	対応済み
	容器包装品		年間使用量 50t以上	容器包装リサイクル法	対応済み
	危険物		少量危険物第四類	消防法	対応済み

項目	能力・取扱量	台数	届出基準	関連法規	届出要否
1) 港工場 設備系列					
ボイラ設備	都市ガス13Aガスボイラ 蒸発量 1.2t 伝熱面積:5.64 m <sup>2</sup> バーナ能力:69.4N m <sup>3</sup> /h	4	伝熱面積10m <sup>2</sup> 又はバーナ能力80N m <sup>3</sup> /h	大気汚染防止法	該当せず
排水処理施設	水量 150 m <sup>3</sup> /日処理	1	特定施設又は日平均 50 m <sup>3</sup> 以上	水質汚濁防止法 下水道法	対応済み
コンプレッサ	2.2kw	2	出力 2.2~7.5kw未満 騒音規制条例:対象施設	騒音に係わる指定施設 (坂出市条例)	対応済み
	37kw	4	出力 7.5kw以上 騒音規制法:特定施設 振動規制法:対象施設	騒音・振動規制法	対応済み
送風機	3.7kw	1	出力 2.2~7.5kw未満 騒音規制条例:対象施設	騒音に係わる指定施設 (坂出市条例)	対応済み
	30kw	2	出力 7.5kw以上 騒音規制法:特定施設	騒音規制法	対応済み

## 7-2 環境関連法規等への違反、訴訟等の有無

港工場ボイラ設備を、2009年1月に重油ボイラから都市ガスボイラに更新し、大気汚染防止法の対象外設備となりました。

また、当社に適用される環境関連法規の順守状況を確認した結果、違反はありませんでした。

関係機関等からの指摘、利害関係からの訴訟もありませんでした。

## ～ 8. その他の環境関連活動 ～

地域との調和・文化事業

### ①小沢剛讃岐醤油画資料館

真面目かつユーモアたっぷり。醤油画に取り組む画家、小沢剛氏の作品を集めた「小沢剛醤油画資料館」を運営。

<http://www.kamada-soy.co.jp/museum/>



### ②四谷シモン人形館

四谷シモンの人形たちにとって居心地の良い展示空間として、鎌田家の旧洋館を提供しています。

<http://www.kamada-soy.co.jp/doll/>



### ③瀬戸内フィルハーモニー交響楽団への支援

四国初のプロオーケストラ「瀬戸内フィルハーモニー交響楽団」の演奏活動を支援しています。

## ～ 9. 代表者による全体評価と見直しの結果 ～

東日本大震災の影響から、電力供給事情が逼迫してくると想定される。

停電時のリスク管理を考慮しておく必要から非常用発電機、コージェネ、自然エネルギーを活用した発電システム等の検討を進める時期に来ている。

### 目標・活動計画

- 1) 逼迫した電力事情から全社的な節電取組みを図る必要あり。
- 2) 太陽光発電システムの導入検討を早急に実施する。
- 3) 節水、省資源については従来 of 活動成果を日常管理項目として標準化し、更なる削減に努めること。
- 4) 改善活動と環境活動の連帯により、目に見えた成果が現れているため今後もリンクした展開を図って欲しい。
- 5) 食品廃棄物はリサイクル法の目標値 80%をクリアし、89%に達している。この値を維持するよう、設備管理の強化を図って欲しい。

鎌田醤油株式会社

代表取締役社長

鎌田 郁雄